

能登半島地震ボランティア 報告書

教団救援対策委員会
能登災害ボランティア窓口

ボランティア日程

	日時	参加者	備考
0	2024年7月8日（月）～9日（火）		先遣チーム
1	2024年8月5日（月）～8日（木）	1名	
2	2024年8月26日（月）～29日（木）	4名	
3	2024年9月4日（水）～7日（土）	0名	申込みなし
4	2024年9月11日（水）～14日（土）	1名	
5	2024年10月8日（火）～11日（金）	6名	羽咋教会から4名参加
6	2024年10月11日（金）～12日（土）	6名	中部教区・北陸学院と協働 泥かきボランティア
7	2024年10月22日（火）～25日（金）	4名	
8	2024年11月5日（火）～8日（金）	5名	
9	2024年11月19日（火）～22日（金）	9名	

各日程報告

2024年7月8日（月）～9日（火）

- ◆ 教団派遣の先遣チームとして
救援対策委員会と西東京教区のボランティアが輪島教会へ訪問
牧師館の清掃、教会倉庫の整理、重要書類の搬入
礼拝堂の講壇にまとめておいた長老会記録等が、整理された。



2024年8月5日（月）～8日（木）

参加者…1名
長野県町教会1名

ワーク内容

輪島教会の牧師館片付け

礼拝堂の清掃 解体が決まった教会員宅の貴重品搬出作業

仮設礼拝堂の下水配管保護のためのプランター設置



2024年8月26日（月）～29日（木）

参加者…計4名
小松教会2名、東美教会1名、野田沢（SCF主事）

ワーク内容

輪島教会教会員宅の屋内整理 同宅導線復旧作業（地震後避難所で過ごしていたが、その後ご夫妻で入院されていた）



2024年9月4日（水）～7日（土）

参加者なし

2024年9月11日(水)～14日(土)

参加者…1名

水口教会1名

ワーク内容

北陸学院大学支援チームへ合流して活動

被災住宅の片づけ・家具の運び出し

仮設住宅での見守り・支援活動

災害ボランティアセンター運営支援

在宅被災者支援



2024年10月8日（火）～11日（金）

参加者…計5名
八王子教会1名、羽咋教会4名

ワーク内容
解体前の輪島教会会堂内清掃
教会員宅の片付



2024年10月11日（金）-12日（土）

2024年9月21日から23日の豪雨を受けて中部教区・北陸学院と協働で泥かきボランティアを臨時で募集した

参加者…計6名
名古屋北教会、名古屋新生教会、中京教会、金沢南部教会、金沢元町教会、羽咋教会
各1名

ワーク内容
門前、深見地区での家屋内の泥出し作業



2024年10月22日（火）～25日（金）

参加者…計4名

秋田高陽教会、本荘教会、伊丹教会、尼崎教会 各1名

ワーク内容

洪水ゴミの搬出（門前、深見地区）

輪島教会信徒宅前に残された汚泥や残土の片付け



2024年11月5日（火）～8日（金）

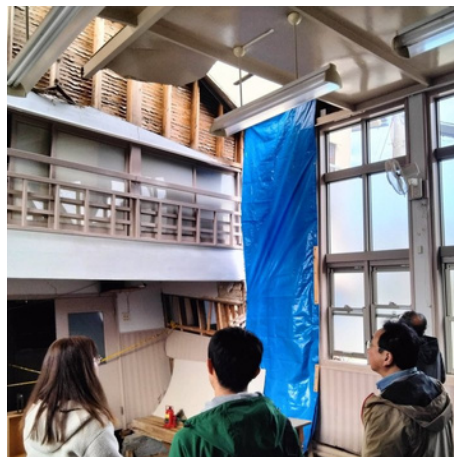
参加者…計5名

広路教会2名、南三鷹教会3名

ワーク内容

輪島市の社会福祉協議会の支援活動への参加

輪島教会、信徒宅汚泥土嚢の搬出作業



2024年11月19日（火）～22日（金）

参加者…9名

代田教会4名、SCF・吉祥寺教会1名、SCF・仙台ホサナ教会1名、豊沢教会1名、北陸学院1名、松本教会1名

ワーク内容

輪島教会の会堂清掃と信徒宅片付け

深見地区にて地元の方（バラ園のオーナー）のお話をきく



参加者からの報告（教団新報より抜粋）

心が癒されるための継続的支援を

8月5～8日、教団が実施するボランティア（第一次日程）に参加しました。今回の作業内容は、牧師館の整理と信徒宅での貴重品の探索でした。ここに書けることは限界があります。この報告で端的にお知らせしたいことは「できれば行って、見て、力になってください」ということです。今後、この支援活動が継続し、意義あるものとなっていくことを願って報告します。

現地の状況をざっくり言うと、大きな傷痕を残しつつも、生活に必要な物は整えられてきているという印象でした。地面は亀裂が入り、車で走ると凸凹です。全て補修したのであろう新しい道路、半分になってしまったのを補修した道路、階段のような隆起を埋めた道路を走るだけで、ここまで整えるのにどれだけの労苦があったらろうと思います。

輪島の街は、崩れた家や建物が多く残っていました。電柱や信号機はどれも傾いていますし、朝市は文字通り焼野原です。作業のため、ある家に入らせて頂きましたが、家の中は足の踏み場もなく、一歩進むごとに、茶碗やら、木片やらが靴の下で割れました。それでも、飲食店やコンビニは開店しており、品物も整っていたと思います。そういう意味で、生活面での必要は回復してきているようでした。

しかし、それだけでは、癒やされないものがあります。毎日、あの倒壊した建物と焼野原を目にする辛さを思えば、胸が潰れるようです。限界状況の中で暮らしている人々の心が癒やされるために、慎重で継続的な援助が必要だと思いました。輪島教会の庭にプランターで花を持って行きました。焼野原のただ中にも誰が植えたのか、赤いバラが花開いていました。そんな活動がわずかずつつでも、癒やされるのに役立てばよいと願います。

行かなければ感じることでできないものがあり、祈りに覚えたいことがいくつも与えられました。この支援活動が継続され、参加する人々の手を主が強めてくださり、現地の人々の励みとなるように祈っております。

（森本玄洋報／【5023号】能登半島地震報告《ボランティアから》抜粋）

参加者からの報告（教団新報より抜粋）

災害の爪痕が生々しく残る地で

10月22日から25日にかけて行われた日本基督教団能登半島地震支援ボランティアに参加しました。私がこの報告を書いていいのかわかりませんが、24日には尼崎に帰る必要があります、中途半端に帰りました。これから参加をお考えの方は全日参加で予定を組まれた方がよいと思います。

1月に震災が起こり、9月に水害が起こった能登ですが、ワークで訪れた時点で1か月ほどが経過していました。地震により道路はボコボコになり、迂回するように道路が補修された部分があくつもあり、段差も激しく残っていました。ワークで訪れた輪島には、水害で堆積した土砂があちらこちらに残っていました。能登半島を北上するにつれ、災害の爪痕が少しずつ見えるようになると、心がざわめきました。震災による被害からの復興がされていたさ中に、水害が起こるということはその地に住む人々にとって大きな辛さを与えたということは想像に難くありません。そのような経験をした「爪痕」が生々しく残る地での生活があります。

ワークの内容は、輪島教会の教会員宅の水害被害の片付けでした。泥にまみれたものも多く、パッと見ただけでは何かわからないモノですが、被災された方にとっては掛け替えのない生活の一部にほかなりません。災害に関連して多くのものがゴミとして積み上げられている光景もありますが、それは単なるゴミではなく大切なものであるという想像力が大切であるということを思わされました。

震災が起こってから間もなく1年を迎えようとしています。報道でよく流れた輪島の倒壊したビルは私たちが訪れる少し前から解体作業が始まったと聞きました。普段の生活が戻ることを望みながら、なかなか進まない復興の現状を知らされました。自分の生活の場から離れた場所のことを、祈りながら覚えることが私たちにはできません。能登半島の災害を覚え続けるということを強く感じました。

震災からは1年が経とうとして、冬が訪れています。この冬のさ中に、被災地に生きる方々の命が守られることを祈る者でありたいと思います。

（柘田翔希報／【5027号】能登半島地震報告《ボランティアから》抜粋）